



●気象変動に負けない！今年は「深耕」に取り組もう

新潟クボタでは、長年にわたり「パワクロによる土づくり」をお客様へご提案させて頂いてきました。プラデラやスタブルカルチによる粗耕起、プラウによる反転耕、サブソイラや溝掘機による排水対策などです。

大変ありがたいことに、近年では担い手・生産組織のお客様を中心に、パワクロ + 作業機をうまく活用し、経営の中に取り入れていただいているお客様も増えてきましたが、もっと幅広いお客様から取り組んで頂くには、地道な提案活動が必要と感じています。

しかし、昨年は様々な気象変動に悩まされた年であり、春・秋作業時に田んぼが乾かず苦労されたお客様が多かったのではないのでしょうか。そして、米の品質低下の問題。

例年になく、サブソイラ・溝掘機による排水対策などの問い合わせも多くなりました。

今年は、改めて「土づくり」を大きなテーマとして取り組み、お客様のお役に立てればと思っています。

排水対策



田んぼにキスがななめに入っているのがサブソイラをかけた跡です

イネ収穫後、サブソイラ作業を行った圃場
(H22年10月6日 長岡)



ほ場には水がたまっているのに、暗渠の排水口からは水が出ていない気配はありません…。



サブソイラをかけた直後、詰まっていたゴミと一緒に濁った水が勢い良く出てきました！

大豆の排水対策ではおなじみの「サブソイラ」ですが、排水効果だけでなく、イネや大豆の品質向上の効果も期待できます。排水性が改善されると、下へ抜ける水を追って、根も下へ下へ伸びてくれるので、根域拡大や根腐れ防止にもつながるのです。サブソイラは、20馬力クラスのトラクタから作業ができるので、「気象変動に強い米づくり」の第1歩としておすすめしています。

深耕

新潟県の一般的な水田の作土層は、9~12cm程度とされています。新潟クボタでは、スタブルカルチ等で初めて深耕（粗耕起）に取り組むお客様には、まずは1寸（3cm）深く耕してみることをおすすめしています。「1寸1石」と言いますが、たった3cm深く耕すだけで、根域拡大や肥料効果が期待できます。

また、粗く起こすことで圃場が乾き、春の碎土率も上がります。

またツーウェイローターは、「プラウやスタブルまでは必要ないが、手軽に深耕したい」というお客様へおすすめです。通常のロータリよりも草やワラのもぐりが良く、大豆等の播種も同時に行うこともできます。

日本農業新聞(10月27日付)

クボタパワクロ+プラウを活用した深耕に取り組み、今年も全量1等米だったという、尾崎農場様(上越)の記事が掲載されました。



プラウ



スタブルカルチ



ツーウェイローター

●クボタの新型パワックロ<豆知識>



NEWスーパーシナジ（80～95馬力）

キングウェルシリーズ
（24～51馬力）

クボタの新型SGパワックロ「キングウェルシリーズ」
「ニュースーパーシナジ」は、従来のパワックロと比較してクローラ内側に付着する泥の量が大幅に減りました！



クローラのスプロケット穴を廃止したことで、クローラ内部の泥の付着・走行時の泥落とし量が少なくなりました。耐久性もUPし、掃除点検もラクに！ぜひ展示会等でご注目ください。

●今年の大豆実証圃の作業が始まりました

11月22日、新潟市南区の道潟農場様でサブソイラ作業を行いました。道潟農場様は、今年の大豆300A実証圃（新潟県普及展示圃）として圃場をお借りする予定です。



サブソイラの先には、昨年上越の大豆実証圃で効果の高かった「ウイング」を付けて作業しました。（弾丸よりも排水効果が大きい）

排水対策をしっかりと行うため、5m間隔で細かく作業を行いました。深さは約40cmです。



●全国で広がるクボタの「大豆300Aプロジェクト」



昨年11月、(株)クボタ東京本社にて「大豆300A技術検討会」が行われ、当社リユニオンチームも参加してきました。

大豆300Aプロジェクトは、新潟クボタを含め全国のクボタ販売会社（東日本を中心に15県）で取り組んでいます。

今回の検討会は、各県ごとに今年の取り組み状況と来年の課題について報告する会議でした。

県によって気候や土質は違いますが、機械面・栽培面でも様々な報告があり、お互いの良い刺激となりました。

●金塚生産組合、堺町生産組合、島田生産組合のみなさん 2年間にわたり大変ありがとうございました

新発田の金塚生産組合様、長岡の堺町生産組合様、上越の島田生産組合様には、2年間にわたり大豆300Aプロジェクトにご協力いただき、大変お世話になりました。一緒に取り組みをさせていただく中で、逆に教えていただくことも多く、勉強になりました。本当にありがとうございました。

今年の大豆実証圃は、新たに場所が変わります！

詳しくは、2月9日・10日に開催予定の「H22年度 総括検討会」で発表させていただきます。ぜひご来場下さい。

